

「VICSワイド」サービスがスタート

道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター、倉内憲孝理事長)はFM多重放送サービスを拡充し、4月23日から「VICSワイド」としてサービスを提供している。これはFM多重放送による交通情報伝送容量を従来の約2倍に拡大したもので、新たに①一般道のリンク旅行時間②プローブ情報を活用した渋滞・旅行時間情報③緊急情報(特別警報)④気象・災害情報の提供の4点の情報か加えられた。

FM多重放送 情報伝送容量が倍増

一般道のリンク旅行時間情報をもとにより短時間間隔で到着できるルートを開出する所要時間のこと。従来は伝送容量の制約から、車の進行方向の一定区間情報のみがビーコンから送られていたが、「VICSワイド」では広範囲の情報がFM多重放送によって得られるようになった。結果、これまで光ビーコンユニットが必要だったタイナミック・ルート・ガイダンス・システム(DRGS)旅行時間情報に、路上の渋滞情報・時間情報

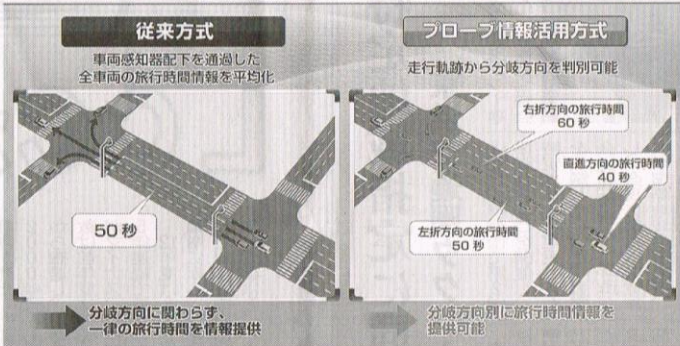
が把握ができるようになり、より多くの選択肢からDRGSを実現している。さらに、車両の走行軌跡情報から直進・右折・左折の交差点流出方向別のリンク旅行時間も提供。これによる直進はスムーズなのに、右折レーンだけは従来通りというケースも、適切にDRGSに反映されるようになる。現在は東京地区のみだが、順次エリアを拡大する計画だ。VICSセンターでは、プローブ情報に加えることで、平均所要時間を10%程度短縮できると試算している。

緊急情報(特別警報)に関しては、従来、大津波の特別警報のみポプアップ情報として提供し、気象情報は文字情報にとどめていたが、「VICSワイド」では、気象、津波情報に火山噴火を加えた全ての特別警報(地震を除く)をポプアップで提供することとした。

特に気象情報では、近年のゲリラ豪雨による道路冠水などに被害を考慮し、ドライバーの前方視認性が低下するおそれる降雨強度50mm/h以上の大雨が発生しているエリア(250m四方メッシュ単位)の情報を提供することとした。ナビ画面には該当する降雨エリアを多角形表示。ドライバーは直観的に降雨エリアを把握でき、大雨に伴う混雑路線の回避など安全性向上につながる。

なお、「VICSワイド」を利用するためには、対応カーナビが必要。クラリアンが6月上旬に対応カーナビを発売するほか、他メーカーも順次、新型カーナビから対応させていくものと見られる。

プローブ情報を活用した方向別旅行時間情報生成



雨量情報の多角形表示



気象・災害など4点の情報加わる

緊急情報(特別警報)に関しては、従来、大津波の特別警報のみポプアップ情報として提供し、気象情報は文字情報にとどめていたが、「VICSワイド」では、気象、津波情報に火山噴火を加えた全ての特別警報(地震を除く)をポプアップで提供することとした。

特に気象情報では、近年のゲリラ豪雨による道路冠

水などに被害を考慮し、ドライバーの前方視認性が低下するおそれる降雨強度50mm/h以上の大雨が発生しているエリア(250m四方メッシュ単位)の情報を提供することとした。ナビ画面には該当する降雨エリアを多角形表示。ドライバーは直観的に降雨エリアを把握でき、大雨に伴う混雑路線の回避など安全性向上につながる。

なお、「VICSワイド」を利用するためには、対応カーナビが必要。クラリアンが6月上旬に対応カーナビを発売するほか、他メーカーも順次、新型カーナビから対応させていくものと見られる。